



京セラ株式会社 2021年3月期 第1四半期 決算カンファレンスコール
(2020年7月30日実施)

代表取締役社長 谷本 秀夫 スピーチ

<1. (中表紙) 2021年3月期第1四半期 決算概要>

<2. 2021年3月期第1四半期 決算概要>

第1四半期は、新型コロナウイルス感染症の影響を主因に前年同期に比べ減収減益となりました。売上高は17.6%減少の3,171億円、営業利益は66.5%減少の76億円、税引前利益は33.1%減少の304億円、当期利益は30.1%減少の224億円となりました。

平均為替レートは、対米ドルは前年同期に比べ2円円高の108円、対ユーロは5円円高の118円となり、これにより売上高は約60億円、税引前利益は約15億円、押し下げられました。

<3. 2021年3月期第1四半期 事業セグメント別売上高>

事業セグメント別には、「産業・自動車用部品」は増収となったものの、他のセグメントは減収となりました。

<4. 2021年3月期第1四半期 事業セグメント別利益>

利益につきましては、「半導体関連部品」は増益となったものの、他のセグメントは減益となりました。

<5. 2021年3月期第1四半期 業績サマリー>

第1四半期のサマリーを3点ご説明します。

1点目は、新型コロナウイルス感染症による主要市場での需要の減少です。自動車関連市場では、自動車の生産活動停滞を受け「電子デバイス」を中心に減収となりました。また、ドキュメント市場では、オフィスへの出勤抑制に伴い、機器や消耗品の需要が減少しました。

2点目は、5G及びデータセンター関連部品の需要の増加です。5G対応スマートフォンや基地局向けに、主に水晶・SAWデバイス用セラミックパッケージの需要が増加しました。また、新型コロナウイルス感染症対策としてテレワークやオンライン学習などの利用が増え、データ通信量が増加したことにより、データセンター向けに光通信用セラミックパッケージの需要が増加しました。

3点目は、前期に実施したM&Aの貢献です。昨年6月に買収したサザンカーソン社や、昨年9月に買収したフリアテック社のセラミック事業の売上が、当第1四半期は期初より貢献しています。

<6. 2021年3月期 第1四半期 事業セグメント別業績(1)>

<産業・自動車用部品>

事業セグメント別にご説明します。

左側の「産業・自動車用部品」は、車載カメラや切削工具などの自動車関連部品の売上は減少したものの、前期に実施したM&Aにより約100億円の売上増となったことから、増収となりました。

一方、利益については、自動車関連部品の売上減に加え、減価償却費等の増加もあり、減益となりました。

<半導体関連部品>

右側の「半導体関連部品」は、セラミックパッケージの売上は5G対応スマートフォンや基地局を含む通信インフラ向けに堅調に推移しましたが、自動車関連市場の低迷により車載向け有機多層パッケージの売上が減少したことから、減収となりました。

一方、事業利益は、セラミック材料事業の増収及び原価低減により増益となりました。

<7. 2021年3月期第1四半期 事業セグメント別業績(2)>

<電子デバイス>

左側の「電子デバイス」は、自動車関連市場など主要市場の低迷を受け、AVX Corporationの売上が減少したことを主因に、減収減益となりました。

<コミュニケーション>

右側の「コミュニケーション」は、携帯電話の販売減や、工事の遅れによるエンジニアリング事業の売上減もあり減収となりましたが、原価低減に努めた結果、事業利益率は前年同期と同水準を維持しました。

<8. 2021年3月期第1四半期 事業セグメント別業績(3)>

<ドキュメントソリューション>

左側の「ドキュメントソリューション」は、テレワークの増加を背景にドキュメントソリューションサービスの需要は増加したものの、世界各国でのオフィスへの出勤抑制の影響を受け、機器や消耗品の需要が大幅に減少したことから減収減益となりました。

<生活・環境>

右側の「生活・環境」では、スマートエナジー事業の売上が、国内市場での経済活動の停滞を受け、太陽光発電システムの設置工事の遅延や営業活動の一時的な自粛により、減少しました。この結果、当事業セグメントは減収となり、事業損失は増加しました。

以上が当第1四半期の概要です。続いて、通期の業績予想についてご説明します。

<9. (中表紙) 2021年3月期 業績予想>

<10. 2021年3月期 業績見通し>

第1四半期は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたものの、第2四半期に入り、自動車関連市場においては需要の底打ちが見られます。また、5G関連製品の季節要因による伸びや、ドキュメントソリューションの需要回復を見込んでおり、第1四半期を底に、第2四半期以降、段階的に回復していくものと想定しています。

<11. 2021年3月期 業績予想>

米中貿易摩擦の再燃が懸念されるものの、前述の市場見通しに鑑み、通期の業績予想につきましても4月の公表数値から変更はありません。

<12. 2021年3月期 事業セグメント別売上高予想>

<13. 2021年3月期 事業セグメント別利益予想>

12ページ、13ページに記載のセグメント別の業績予想についても変更はありません。最後に、第2四半期以降の機器・システム事業の売上拡大策についてご説明します。

<14. 2021年3月期第2四半期以降の取り組み：コミュニケーション>

「コミュニケーション」では、B-to-B事業の拡大に取り組んでいます。当社は「安心、長く、快適に」をコンセプトに、セキュリティ面や耐久性に優れた携帯端末やタブレット端末を、教育現場や建設業など様々な分野へ展開しています。

また、今月より、法人のお客様の業務負担を大幅に軽減する新たな事業を開始しました。端末の導入支援から運用サポート、さらには修理・リサイクルまでのサービスをワンストップで提供する「京セラモバイルサポートサービス」を国内で一貫して提供することにより、新たなビジネスモデルの確立を図ります。

<15. 2021年3月期第2四半期以降の取り組み：ドキュメントソリューション>

新型コロナウイルス感染症の影響により、ドキュメントソリューション事業は大きな影響を受けていますが、同事業においては持続的な収益獲得に向けて、事業領域の拡大に取り組んでいます。

当社は前期に、新たに商業用インクジェット事業へ参入しました。多様化するオンデマンド印刷需要に対し、高速出力などの高い生産性や独自開発のインクを用いて、耐光性など優れた画像品質の確立により、新領域での事業の拡大を目指します。

また、ソリューション事業では、入力からワークフロー、出力まで、すべて自社開発製品による一気通貫のECMソリューションサービスで、お客様のペーパレス化やドキュメントデータ管理の最適化をサポートしてまいります。

以上が今期の取り組みです。引き続き先行き不透明な環境にありますが、当社は従来の方方法にとらわれず、デジタル化の推進など柔軟な発想で事業環境や生活様式等の変化への対応を進め、新たなニーズの獲得に取り組んでまいります。

以上

将来事象に関する注意事項

当資料には、将来の事象についての2021年3月期第1四半期決算カンファレンスコール開催日(2020年7月30日開催)時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。